

GX率先実行宣言

社会全体のGX加速化に向けて、GX製品・サービスの早期社会実装が極めて重要であることから、当社は自らのScope 1、2の削減取組に加え、これらの製品・サービスが有するGX価値の評価を通じてGX製品の社会実装に積極的に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進することを宣言します。

1. 早期の社会実装に貢献するGX製品

当社は、以下に関連するGX製品の早期社会実装に貢献します。

a.	分類	産業競争力基盤強化商品
	対象	グリーンケミカル
b.	分類	産業競争力基盤強化商品
	対象	グリーンケミカル
c.	分類	低炭素水素等
	対象	水素
d.	分類	低炭素水素等
	対象	アンモニア
e.	分類	低炭素水素等
	対象	合成メタン

2. 具体的な行動内容

当社は、前項で選択した事項に関連して、具体的には以下の行動を推進することで、GX製品の早期社会実装と社会のGXに貢献します。

a.	グリーンケミカル
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	当社の製造拠点における化学製品製造において、原料の脱炭素化を目的として、グリーンケミカル（例：エチレン、プロピレン等）を調達することを目指します。経済合理性、環境価値、品質・安全性等を総合的に評価した上で、積極的な調達を進め、サプライチェーン全体におけるカーボンニュートラル実現へ貢献していきます。

b.	グリーンケミカル
対象行動	中間・最終製品製造
概要	当社は通常、石油化学由来原料を使用して化学製品を製造していますが、グリーンケミカルへの原料転換を推進することで、当社の製品そのものの環境価値を向上させます。これにより、当社製品を原料として使用する需要家ならびに最終製品の環境価値向上にも貢献し、サプライチェーン全体でのGX製品市場の創造・拡大を後押しします。

c.	水素
対象行動	宣言対象製品の調達・購買

概要	当社の製造拠点において、熱電併給システム（コージェネレーション）等の燃料転換を目的として、水素の調達を目指します。経済合理性、環境価値、品質・安全性等を総合的に評価した上で、水素の積極的な導入を進めることで、事業活動における脱炭素化およびカーボンニュートラル社会の実現に貢献していきます。
----	--

d.	アンモニア
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	当社の製造拠点において、熱電併給システム（コージェネレーション）等の燃料転換を目的として、アンモニアの調達を目指します。経済合理性、環境価値、品質・安全性等を総合的に評価した上で、アンモニアの積極的な導入を進めることで、事業活動における脱炭素化およびカーボンニュートラル社会の実現に貢献していきます。

e.	合成メタン
対象行動	宣言対象製品の調達・購買
概要	当社の製造拠点において、熱電併給システム（コージェネレーション）等の燃料転換を目的として、合成メタンの調達を目指します。経済合理性、環境価値、品質・安全性等を総合的に評価した上で、合成メタンの積極的な導入を進めることで、事業活動における脱炭素化およびカーボンニュートラル社会の実現に貢献していきます。

3.サーキュラーエコノミーの推進

当社は、サーキュラーエコノミーを推進しGXを実現するため、自らのサーキュラーパートナーズ（CPs）への参画や、製造業者と廃棄物リサイクル業者との事業連携を自ら進めるとともに、再生材の調達を積極的に検討することによって、新たな資源の使用や消費を最小限に抑え、既存の資源の価値を最大化する経済システムの構築を目指します。

4.温室効果ガス削減目標の設定

当社は、サプライチェーン全体でのGXを推進すべく、Scope3の削減に向けて以下の目標を設定します。また、第2項に記載した行動内容が、Scope3の削減に対してどのような効果があるかを以下に示します。

※ 第2項に記載した行動内容がScope1,2の削減に資する場合は、Scope1,2の削減に関して以下に示します。

a.	グリーンケミカル
削減対象	
目標年度	
基準年度	
目標削減率	

削減目標における選 択対象の位置づけ	
-----------------------	--

b.	グリーンケミカル
削減対象	
目標年度	
基準年度	
目標削減率	
削減目標における選 択対象の位置づけ	

c.	水素
削減対象	
目標年度	
基準年度	
目標削減率	
削減目標における選 択対象の位置づけ	

d.	アンモニア
削減対象	
目標年度	
基準年度	
目標削減率	

削減目標における選 択対象の位置づけ	
-----------------------	--

e.	合成メタン
削減対象	
目標年度	
基準年度	
目標削減率	
削減目標における選 択対象の位置づけ	

5.GX製品の社会実装促進に向けた目標の設定

当社は、前項に掲げた削減目標に基づき、以下の時間軸・定量的目標に沿って、第1項で選択したGX製品・技術及びそれらから派生するサービスの社会実装に貢献します。

a.	グリーンケミカル
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定 量的目標の概要	

b.	グリーンケミカル
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定 量的目標の概要	

c.	水素
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

d.	アンモニア
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

e.	合成メタン
目標年度	
定量的目標	
選択対象に関する定量的目標の概要	

6.適用範囲

当宣言は、以下の範囲まで適用されます。

適用範囲	自社単体
------	------

当社は、この宣言に基づいてGX価値を評価し、GX製品の早期の社会実装に貢献することで、サプライチェーン全体でのGXを推進してまいります。

2026年3月19日

株式会社日本触媒
代表取締役社長 野田 和宏